



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

この道を行こうよ 苦難を超える無碍の一道

東日本大震災から六年の歳月が流れました。私はふと「あのバナナの少年はどうしているだろうか?」との思いが胸をよぎりました。「バナナの少年」とは誰か?私には会ったこともなければ、名前も知りませんが忘れられない記事を目にしたのです。

大震災直後、ベトナムの新聞記者が被災地の避難所を訪ねました。避難所の片隅に一人の小さな男の子がいましたが、見るからに寒そうで、震えているようにしたので、記者が着ていたジャンパーをその子に着せました。するとジャンパーのポケットから一本のバナナが床に落ちました。少年が床に転がったバナナをじっと見ているのを見て、記者はバナナを少年の手に握らせて、「これを君にあげるよ」と話しかけました。すると、少年はバナナを食べずに立ち上がり、一目散に避難所の奥の救援物資集積所の方面に駆けていき、バナナを置いて元の場所に戻ったのです。

記者は驚くとともに、大きな感動を覚え、早速ベトナムに記事を配信しました。「日本には素晴らしい子供がいる。ベトナムにはこんな子供はいない。

むげ

日本は悲惨な状況にあるが、こんな子供を育てた国は必ず復興する...!

震災で恐らく家も家族も失った小さな少年は、飢えと寒さで震えている状況下で、もらったバナナを一気に食べたかったに違いない。にもかかわらず、独り占めできない、分かち合おうとした清々しい心映えに記者もベトナムの人たちも心打たれ、沢山の義援金や支援物資が寄せられた。「バナナの少年にあげて下さい」といメッセージも多数寄せられたそうです。

こんな健気な少年に育てた親御さんに想いを馳せ、お念仏申さずにおれません。こんな心優しい子供ならば、親兄弟を失っても困難に負けず、周りの人に愛されて、立派な人間に育っていくことができるでしょう。

実際この世は何が起るかわからない。子や孫の行く末を案じつつもいつまでも付き添うことは叶いません。だから、「有難う」「おかげさま」が言える子に育てなければならぬのです。金子みすゞさんの「この道」という詩を紹介します。

この道の先には 大きな森があらうよ
 一人ぼっちの櫻よ この道を行こうよ



うよ この道の先には 大きな海があらうよ
 うよ 蓮池のカエルよ この道を行こうよ
 この道の先には 大きな都があらうよ
 淋しそうな山子よ この道を行こうよ
 この道の先には何か何かあらうよ
 みんなで みんなで行こうよ
 この道を行こうよ

この道とは彼岸(お浄土)に至る道。どんな苦難をも念仏申しつつ、手を取り合い、声かけ合いながら乗り越えていける無碍の一道が開かれています。

☆行事ご案内☆

春季永代経 お経開き3月18日(土) 午前10時半

3月18日(土) 午後1時半 夜の法座なし

19日(日) 午後1時半

講師:稲葉芳道先生(奈良県・吉野)

◇三重組十三日講 講師:杵築宏法先生(兵庫)

3月13日(月) 午前10時・午後1時

◇三全仏教婦人会総会 3月20日(月)夜7時 善正寺

◇絵手紙教室 3月14日(火)午前10時 19回目川崎光子先生

◇キッズサンガ 3月4日(土)4時、鐘つき夕方5時年中無休、

◇三重組コーラス 3/9午後1時、西勝寺様で練習、

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。

毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設8年7カ月で

23万訪問、一日約100訪問、悩み相談、大歓迎!即返信

◇一縁会テレホン法話:059・354・1454お電話を

2/20から住職、3/6から若院、3/20から坊守、3人が

夫々一週間担当。3分間の生法話聞けます。是非お電話を!

◇新納骨堂:後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所お困りの方;本堂使用可、駐車場有、寺にご相談を!

写真アラカルト



三重組代表参拝;御影堂前にて



IMG_20170



キッズサンガ

積雪に覆われた境内
 御正忌後半、20年
 ぶりの大雪に見舞わ
 れ、本願寺への代表
 参拝は再々延期で、
 1月17日に!

坊守スケッチ 『丁度よい』が再燃

7年前の私のブログに石川県野々市市常讀寺(大谷派)坊守・藤場美津路さんが作られた詩『丁度よい』を紹介した。先日テレビで臨済宗教師が末期癌患者にこれを教えた。患者は安らかな気持ちで旅立った。それ以来この詩が再燃!あちこちから問い合わせがあるので、改めてここに紹介する。

『丁度よい』 藤場美津路

お前は お前で 丁度よい 顔も体も名前も姓も お前にそれは 丁度よい 貧も富も親も子も 息子の妹もその孫も それは お前に 丁度よい 幸も不幸も喜びも 悲しみさえも 丁度よい

歩いたお前の人生は 悪くもなければ 良くもない
お前にとって 丁度よい 地獄へ行こうと 極楽へ行こうと 行ったところが 丁度よい
うぬぼれる要もなく 卑下する要もない 上もなければ 下もない
死ぬ月日さえも 丁度よい 仏様と二人連れの人
丁度よくないはずがない 丁度よいと聞こえた時 憶念の信が生まれます 南無阿弥陀仏

藤場さんは長年教員生活をしながら毎月寺報を400部発行。この詩は寺報『法友』に掲載されたものです。教員時代は自分を知識人の高見に置き仏法に耳を傾けることも無く、孤独

の淵をのたうち回り、斜に構えたやけくそ人生。ある高僧の言葉に、頑な心を打ち砕かれ目を覚まされました。

思えばお釈迦様も、29歳まで王子様として何不自由のない生活。出家後修行をされて断食苦行生活。両極端の生活を経験されたからこそ、どちらも良くななく『丁度よい』つまり「良い加減」という『中道』のお悟りをお開きになったのではないのでしょうか?

ありのまま、全て仏様にお任せする気持ちが生ずれば、自ずと道は開けてくるものです。私達の日常生活でも、『丁度よい』の心を味わいながら過ごしてみたいものです。

お知らせ

- ◇3月13日(月) 午前10時・午後1時『三重組十三日講』善正寺で初講。十年に一度の尊い縁です。皆様お誘い合わせてお参り下さいませ。
- ◇3月18(土)・19(日) 両日共午後1時半『春季永代経』講師は稲葉芳道先生(奈良吉野) 夜の法座無し。
- ◇3月20日(月) 夜7時『三全仏教婦人会総会』(善正寺にて)
- ◇1月の大雪で、本堂の樋と、庫裏の屋根瓦・樋等が破損、修繕工事に掛ります。

敬弔

★長谷川建次様(68歳・1月20日往生・四日市) 合掌

☆若院夫婦の『育自な毎日』その28
一月、我が家にもインフルエンザ旋風が起りました。

一番手は若院(主人)です。四日間出勤停止。幸い土日を挟んでいたのので、大きな穴を開けずに済みました。子ども達にうつらないように、寝室と食事を別にしました。

二番手は長男(4)。幼稚園で流行し始めて早速うつりました。日曜の夕方から発熱、月曜に受診してインフルエンザと確定。金曜まで登園停止。日曜日はぎりぎりセーフで回復。市文化会館で園のお遊戯会に出演しました。可愛い歌や合奏、音楽劇(赤ずきんちゃん)の狼役を披露してくれました。

三番手は長男の二日後に微熱が出た私と言いたいところですが、インフルエンザではなく単なる風邪。長女(2)だけが風邪もひかずに元気です。子どもが病気の時に、母親も体調を崩すと本当に辛いです。そんな中で長女にうつらなかったのは不幸中の幸い。子どもにはばかり気をとられて、自分が体調を崩してしまつたことを反省しました。家族が揃って健康でいることが、一番幸せだと実感しました。皆様も風邪には気をつけてくれぐれもご自愛ください。(若坊守)



十三日講 縁起(抄)

十三日講は、本願寺第十一代・顕如宗主時代の石山戦争に由来します。

本願寺中興の祖・蓮如上人の建立された石山本願寺は、天下統一を狙う織田信長にとって垂涎の地でした。本願寺が信長からの明け渡しを要求に応じなかったため、信長に攻められてその籠城戦は十一年にも及びました。天正八年(一五八〇) 朝廷の仲介により信長と和議を結び、紀州鷲ノ森に退去、更に貝塚、天満を経て、天正十八年(一五九〇) 京都・堀川(現在地) に本願寺は寺基を定めました。石山戦争や伊勢・長島の攻防戦でもこの地域の門徒衆の犠牲者が沢山出たため、和平後殉難者追悼法要を定期的に営み、法義相続の講が結ばれました。慶長十九年、上人二十三回忌に際し、因縁深い頭如上人御影像をお迎えして今日迄連続と相続されて参りました。先人のご苦勞を偲び、今後共伝統ある十三日講の相続、発展に努めたいものです。

寄稿

四日市市 釈清風

鈴鹿山 雪晴れ悠々 迫りけり
雪去りて 京の御堂は 輝けり
寒くとも 帰る家ある 有難さ

★ 編集子より ★

「善正寺だより」二七九号をお届けします。◇この冬は寒さ厳しい冬でした。◇でも雪国の苦勞を想い、暮らしを支える人たちの苦勞も身に沁みしました。◇当山、九年ぶりの十三日講、皆様多数のお参りを念願申し上げます。

今年になつてトランプ旋風が吹き荒れています。自国ファクトの空気が蔓延して先行き不穏な時代に突入しました。これは正反対に素敵な詩に出会いました。上所重助作「おかげさま」といふ詩です。「夏が来ると「冬がよい」と言い、冬が来ると「夏がよい」と言う。太ると「痩せたい」と言い、痩せると「太りたい」と言う。忙しいと暇になりたい」と言い、暇になると「忙しい方がいい」と言う。自分に都合のいい人は「善い人だ」と言い、自分に都合が悪くなると「悪い人だ」と言う。借りの傘も雨が上がれば邪魔になる。金を持っては古びた女房も邪魔になる。所帯を持つたら親さえも邪魔になる。衣食住は昔に比べりゃ天国だが上を見て不平不満の明け暮れ隣を見て愚痴ばかり。どうして自分を見つめないのか？ 静かに考えてみるかよい。一体自分とは何なのか？ 親のおかけ、先生のおかけ、世間様のおかけの国まりが自分ではないか！ つまらぬ自我妄執を捨てて、得手勝手を慎んだら、世の中はまこと明るくなるだろう。俺が「俺が」を捨てて「おかげさま」「おかけさま」と暮らしたい。……昔から日本には「おかげさま」という目に見えない支えによつて生かされて、いる喜びが感じられました。しかし今や忘れがち。伝える努力によつて「おかけさま」の心を養いましょう。次の法座がその絶好の機会です。3月13日三重組十三日講・18日・19日が春季永代経法要・聴聞によつて「おかげさま」の心は磨かれやす。お誘い合せてお参り下さいませ。

平成二十九年 三月 合掌 善正寺坊守拜